

第 5 回 名古屋 研修会 報告

I 研修会スケジュール

- 1.日時：平成5年10月30日（土）10：00～16：00
- 2.場所：名古屋第二赤十字病院
加藤記念カンファレンスルーム
- 3.会費：会員 ¥ 1,000 非会員 ¥ 2,000
- 4.プログラム

(1)名古屋第二赤十字病院院長挨拶

(2)事例報告の内容

- ア. 文献の相互利用業務をはじめて3年
国立名古屋病院 安江聖子氏
- イ. 文献の相互利用業務に追われる毎日の中で
名古屋記念病院 伊佐治裕子氏
- ウ. 東海地区医学図書館の文献複写サービス
に関するアンケート調査報告
社会保険中京病院 大橋真紀子氏

(3)国立大学医学図書館と病院図書館における文献相互利用の現状

- 三重大学医学図書館図書掛長 新堂富生氏
- 岐阜大学付属図書館図書館専門員
兼医学部分館図書掛長 森 一雄氏

(4)フリーディスカッション

総合司会 森川治美氏（松阪中央総合病院）

参加者 27名（会員16名、非会員11名）

II 報告

東海地区の加盟機関が7機関から12機関に増えたことから、会員の初顔合わせと研修会に向けての話し合いのため7月に会合を持ちました。この席で実行委員長に笠原（名一赤）、実行委員に大橋氏（中京）、安江氏（国立名古屋）、宮岡氏（名二赤）が決まり、青山氏（陶生）には全面的に協力していただくことになりました。今回のテーマ

は最近話題となっている「相互利用について」と決め、事例報告の他に国立大学図書館の方が病院図書室の相互利用をどのように受けとめているのかについて、大学図書館の方にお話をさせていただきました。会場は第二日赤にお願いしました。

○ 事例報告について

事例報告では発表者二人。それぞれの病院の立場からどのように相互利用を拡大していったかなどをお話し、いただいた。また、依頼先に対して感謝の気持ちを忘れないこと、事後処理を速やかに行うことなどいろいろ細かな配慮の大切さを話され、これから活用していく方々にとって大変参考になったと思います。私など見習わなければと大いに反省しました。

○ 東海地区医図協のアンケート調査について

調査内容はFAXでの受け付け、申込方法、注意事項、料金の支払い方法など、相互利用に際して実務の上で今一番必要とする項目の説明で大変参考になりました。大学図書館からは東海地区の病院だけではなく他地域に対しても広く門戸を開いているとの話がありました。

○ 大学図書館の文献相互利用の現状について

大学図書館が地域社会に開かれてきたこと、病院の文献利用に対し製薬会社MRの果たした役割、MRの役割を図書室職員が肩代わりする事による負担増、病院経営陣への期待、今後は病院図書室と国立大学図書館の連携が大切なことなどを統計資料などをもとにお話しいただき、質問に対して好意あるお返事をいただきました。国立の機関であることによる壁は如何ともしがたいとは思いますが、お互い理解を深めることができたと思います。

○ フリーディスカッションについて

参加者の図書委員長（医師）から「図書室での文献依頼業務がいかに大変かよく分かった。もっと病院にアピールしたら良い」との発言がありました。このような講習会に図書委員の先生方も出席して図書室の活動内容を理解していただく必要があると思いました。

参考のためにアンケート調査をいたしましたところ、今後も開催を希望する方が多く好評のようでした。最後に皆様方のご協力でこの会を無事に終了することができ、また第二日赤の院長先生のお計らいで立派な会場で開催できましたことを深く感謝いたします。

（文責：笠原廣子）



《徳永先生の著書紹介》

Medical Essayにご執筆くださった徳永進先生の著書を紹介します。

- 隔離（ゆみる出版、¥ 1,442）
- 隔離—故郷を追われたハンセン病患者たち（岩波同時代ライブラリー、¥980）
- 形のない家族（思想の科学社、¥1,751）
- カルテの向こうに（新潮社、¥1,300）
- 死の中の笑み（ゆみる出版、¥1,545）
- 死のリハーサル（ゆみる出版、¥1,500）
- 話しことばの看護論（看護の科学社、¥1,545）
- 病室 教室への提言（太郎次郎社、¥1,648）
- 臨床に吹く風（岩波同時代ライブラリー、¥700）
- 三月を見る（論学社、¥ 1,500）
- ニセ医者からの出発（同友館、¥1,500）
- 浜田晋・谷川俊太郎・徳永進共著：医療と言葉（ゆみる出版、¥1,400）